

お散歩感覚で
鯖江の市民活動がわかっちゃうブックレット

OSANPO

～出発号～



市民活動の 新たな情報発信として

特定非営利活動法人 さばえNPOサポート
理事長 八田 登師男

さばえNPOサポートは、市民活動の輪を広げ、市民活動団体が活躍しやすい環境を整えたり、行政や市民との架け橋をする「中間支援組織」です。

「コミュニティ・カフェ」「この『の運営』（平成23年10月独立）」「青少年育成事業『みらい塾』の企画・運営」「さばえ型地域通貨『ハビー』の発行・運営」「鯖江市市民活動交流センターの指定管理受託」「提案型市民役事業の実施」等、これまでに、たくさんのごことをしてきました。

中でも、「多くの市民のみならず市民活動についての情報を提供し、興味を持ってもらい、それが可能な範囲で活動に参加しただけのように促す」広報事業は、とても重要だと考えています。

平成20年、そんな中、さばえNPOサポートの中で、ひとつのアイデアが芽を出しました。

「市民活動のお役立ち情報満載で、活動をしている人も、そうでない人も『オッ、おもしろい』と言ってもらえる『情報誌』がでないか？」

既に、市民活動ニュース「どやのメール」（各町内回覧板で市内全戸に告知）、団体広報誌「サポート」（会員・賛助会員・関係諸団体向け）、公式ホームページ「どやの」など、様々な発信ツールを持ってはいましたが、この「情報誌」は、少し違った個性を持ってくれそうな予感がありました。

平成21年度には、とりあえず「市民活動情報誌プロジェクト委員会」を発足したものの、ほんやりしたイメージがあるだけで、まだ具体案の全く無い状態。

その後、試行錯誤や検討を積み重ねて、構想・企画4年目で、ようやく市民活動情報誌「OSANPO」の発行と相成りました。

今回掲載させていただいたのは、鯖江市内で活動されている団体のごく一部です。（「うちの団体にはまだ来ていないゾ」と言う方はぜひ今後にご期待ください。）

また、誌面構成についても、まだまだ改善の余地があると考えています。（そう言った意味でも、今回の第1号を「出発号」とさせていただきます。）

これから、第2号・第3号と続巻を発行していきたいと考えていますので、ぜひ読者のみなさまの手と声で、この「OSANPO」を育てていただければと思います。

最後に、当情報誌発行にあたり、お忙しい中、取材に快くご協力いただいた団体各位、懇切なご指導をいただいた鯖江市の担当の方々、構想・取材・発行に多大なる汗を流した、さばえNPOサポートのスタッフの全員に、心よりお礼と感謝の意を表し、ごあいさつとさせていただきます。

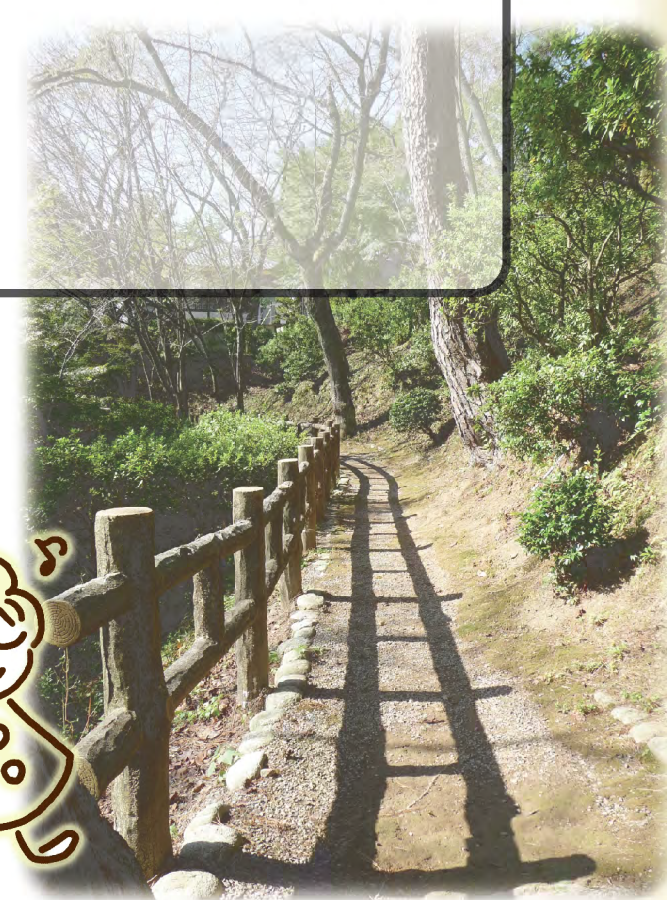
目次

ご挨拶	3 p
巻頭特集「市民役フォーラム」	4 p-5 p
団体紹介①「(社)鯖江青年会議所」	6 p-7 p
団体紹介②「鯖江市国際交流協会」	8 p-9 p
団体紹介③「学生団体with」	10 p-11 p
イベント報告「さばえ秋HANABI」	12 p
「SABAEめがねギネス」	13 p
団体紹介④「鯖江市スカウト協議会」	14 p-15 p
団体紹介⑤「NALCふくい」	16 p-17 p
団体紹介⑥「鯖江市区長会連合会」	18 p-19 p
団体紹介⑦「(特活)さばえNPOサポート」	20 p-21 p
編集後記座談会	22 p-23 p

『OSANPO』について

■ ぶらり“お散歩”感覚で、さばえのNPOや市民活動のことが、気軽に楽しくわかる…それが、「OSANPO」のコンセプトです。

■ タイトルに隠れた「NPO」(非営利で活動する組織)は、実は身近な存在で、その気になれば、今すぐ、誰でも参加することができます。…そう、まるで“お散歩”のように☆…





▲第2部のパネルディカッション「うららのまちづくり」。左から、清水コーディネーター、牧野市長、齋藤会長、栗山会長、八田理事長。



▶原口議員の講演は、ユーモアを交えながらも、多彩な視点と、多くの示唆に溢れたものでした。

真の「市民主役」は 透明性と 責任感から。

さばえ市民主役フォーラム
「うららのまちづくり」～これからの公共サービスのあり方～
主催：鯖江市・鯖江市区長会連合会 主管：(特活)さばえNPOサポート
日時：平成23年11月13日(日) 13時 場所：鯖江市高年大学

今、市民が参加する新しい公共が問われ始めています。

行政にお任せの「公共」ではなく、本当の意味での「市民のための公共」をめざすために、市民の公共サービスのあり方は市民自身で決めていくことが求められているのです。

鯖江市では、昨年「市民主役条例」が制定され、今年度は「提案型市民主役事業化制度」も始まりました。

11月13日(日)、一昨年に成立した「公共サービス基本法」の起案者であり、元総務大臣でもある原口一博衆議院議員を迎え、「さばえ市民主役フォーラム(うららのまちづくり)」が、鯖江市高年大学で開かれました。

〇サポートが協働して、提案型市民主役事業として実現させたものです。

このフォーラムは2部構成で、第1部は原口氏の基調講演(演題「これからの公共サービスのあり方」)。

第2部は、基調講演の内容と市民100人に実施した「市民意識のアンケート」結果を受けてのパネルディスカッションが行われました。

第1部の基調講演において原口氏は、地域に埋もれている資源を最大限活用して地域の活性化を図ることの重要性を強調しました。

地域の活性化、絆の再生を図ることにより、中央集権型の社会構造を分散自立・地産地消・低炭素型に転換する

必要があるという考えで、原口氏は、これを「緑の改革」と呼んでいます。これは、単なる税財源、権限の地方への移譲にとどまらず、地域の責任を明確化したガバナンス(統治)の実現を意味します。

さらに原口氏は、この一翼を担うNPOなどの団体は、行政の下請け機関としてではなく、行政のフラットパートナー(対等な立場での連携相手)となるべきだと主張しました。

国では、このような、行政にはなかなかできない住民サービスを行う団体に対して、税制の在り方等を検討し、既に寄附税制の改革や「認定NPO」の認定制度見直しなどが実現しています。

さらに原口氏は、税や補助金、そして情報の流れを透明化することで、「縦割り」の組織やシステムが、多対多の「ネットワーク型」に再構築され、その多様な視点と価値観で動く社会こそが、「市民主役」の地域の姿だろうと述べました。

第2部では、パネラーとして牧野百男鯖江市長、鯖江市区長会連合会の齋藤晋会長、男女共同参画ネットワークから夢みらいWeの栗山祐子会長、さばえNPOサポートの八田登師理事が参加し、鯖江地区区長会元副会長・さばえNPOサポート元理事長の清水孝次氏がコーディネーターを務めました。

齋藤会長は、まちづくりを担う人材育成の重要性を訴え、牧野市長は、市民が積極的に行政や議会に口出して、新しい公共の担い手になってほしいと呼びかけました。

また、八田理事長や栗山会長は、提案型市民主役事業に積極的に参加していく姿勢を示し、今後の「市民が主役となり、責任を果たして運営する」来たるべき社会の旗手としての役割を訴えました。

深い内容を通して、参加した市民の行政・公共への参画意欲がますます高まったフォーラムとなったようです。



おそるべし!

結束の強さと

使命感!!



社団法人
さばえせいねんがいきしょ
鯖江青年会議所

まちづくり 教育 文化 その他

昭和38年(1963年)に設立された(社)鯖江青年会議所。これほど古く、また、これほど長く活発に活動を続けている団体は数少ないのではないのでしょうか。
なぜ、長く、活発に活動し続けられるのか?
その秘密を第49代理事長高田健一郎さんと専務理事の西村憲治さんにお聞きしました。

『青年会議所って?』

鯖江青年会議所とは、どのような団体なのでしょうか。
高田 青年会議所は、1910年、アメリカのセントルイスに端を発する、世界的な組織です。日本では、1949年、第二次世界大戦直後、戦後復興の最中、経済界の青年たちが集まり、「より良い社会」を築き上げようと東京で旗揚げされました。その後、各地で次々と設立され、鯖江青年会議所は275番目の各地青年会議所として、1963年に設立されました。
青年会議所は、「修練・奉仕・友情」の三信条のもと、明るい豊かな社会の実現を目指す団体です。20歳から40歳までの志のある青年なら誰でも入会できます。
鯖江青年会議所は、三信条のもと、まちづくり事業・ひとつづくり事業・自らの研修事業を三本柱に、明るい豊かなまちを築くため、日々、活動しています。
具体的には、どのような事業を行

っているのでしょうか。
西村 まちづくり事業では、活気あふれるまちにするために、様々な事業を行っています。今年で4回目となる、「さばえ秋HANABI」を始め、献血運動の推進、つつじによる街づくり、鯖江市への提言などを行ってきました。また、ひとつづくり事業では、主に小学生を対象に、例年テーマを設け、これからのまちづくりの担い手となる青年の育成事業を行っています。
研修事業では、会員自らの人間力を高めるために、様々な研修を行っています。

すべての事業において、私たちが自分たちで企画・立案し、予算も、ほとんどもを私たち会員の会費でまかない、自分たちの手で実行しています。

『固い結束の秘密』

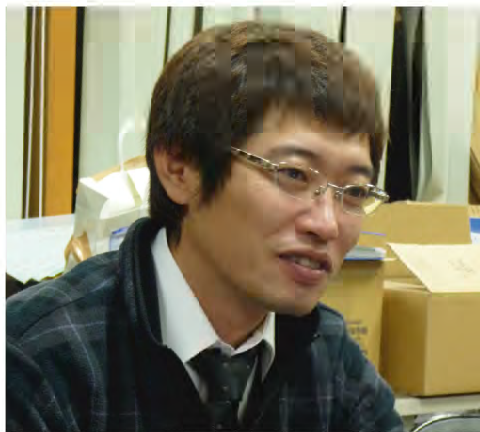
数々の団体がある中で、会員同士がここまで深く繋がりが、例会や事業に一人ひとりが責任感を持って参加する団体は数少ないと思いますが、それはどうしてだと思いますか。



高田理事長

高田 創立当初からの伝統にあるのではないのでしょうか。私たちは、よりよい社会を築くためには、その担い手である自分たちが成長しなければなりませんと考えています。また、他の会員との関わりの中で、自分だけでなく他の会員の成長も考える、そういった雰囲気が伝統となって、会員同士の深いつながりを作っているのではないのでしょうか。

西村 「友情」を行動理念に謳っている団体は他にはあまりないと思います。高田 それから、うまい具合に、若い人たちのプライドを刺激する仕組みがあるからだと思います。思わず、真剣に取り組んでしまう、そんな魅力があるからではないのでしょうか。
——プライドを刺激する仕組み、魅力とはどんなものなのでしょうか。
西村 会員それぞれがいろんな場面で、適度なプレッシャーと適度な達成感を



西村専務理事

——2013年には、創立50周年を迎える(社)鯖江青年会議所。50年間、脈々と受け継がれてきた伝統——会員同士の強固な絆と使命感が、「さばえ秋HANABI」やつつじによる街づくり、愛の献血運動、20年以上

与えられる。そんな中で、プライドが刺激され、自分自身や仲間たちが成長していく、そういったことの連続が魅力となり、また何かやってやろうという活力になったりしているのだと思います。
高田 私たちが目指す、明るい豊かなまちづくりには、人と人との深いつながりや人の成長が必要不可欠である、そういう思いが伝統となって私たちの活動の根本にある。その思いが、私たち鯖江青年会議所の結束の強さや使命感を生み出しているのではないかと思います。

続く青少年育成事業など、数多くの事業の根幹となっていることを感じました。その伝統をしっかり守りながら、きつとこれからも鯖江のまちをリードし続けてくれることでしょう。

「これまで」
「こんな活動もしています」

青少年育成事業



家庭や学校では、なかなか体験できない感動を子供たちに得てもらい、それと共に、これから成長していく中で必ず必要となる「なにか」を学んでもらう事業を毎年企画。
日常を離れたチャレンジングな内容は、これまでに気づいていなかった自分たちの能力や可能性に目覚めさせてくれます。
「無人島体験」「登山」「仁掛花火制作」「ドルフィンスイム」など、事業を通して、子供たちをはじめ、保護者の方々、メンバーにも多くの気づきをもたらしています。

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内
TEL:0778-51-1978
FAX:0778-51-7469
http://www.sabae-jc.jp/
tutuji@sabae-jc.jp

- 代表者…高田 健一郎
- 活動開始…1963年
- 正会員数…59名(2011年11月現在)
- 賛助会員…なし

◎活動目的
明るい豊かな鯖江を築くため「まちづくり」「ひとつづくり」「自分たちの研修」を3本柱に活動しています。

つつじの街づくり (1973~1978)



政府が1964年(昭和39年)に、輸血用血液を、献血で確保することを決定した流れもあり、1965年から(社)鯖江青年会議所も「愛の献血運動」を展開。
1978年には50万ccの献血を達成し、厚生大臣賞を授賞しています。

献血運動の推進 (1965~1978)



正会員募集中!

国際交流は

人と人との

交流から。



徳橋会長



写真提供：鯖江市国際交流協会



清水事務局長

さばえしこくさいこうりゆうきょうかい
鯖江市国際交流協会



何十年前には、鯖江で「外人さん」を見かけただけで、子どもたちは大興奮したものです。でも、それも今は昔：鯖江でもたくさんの外国人の人たちが生活を、経済や文化をはじめ、色々なものが国際的になっていきます。鯖江市国際交流協会は、文字通り「鯖江」で「国際」的な「交流」を担う、中心的な団体さんです。

『鯖江型・国際交流のススメ』

「本当の国際交流は、千の団体があれば千の方法があり、決して正解はないんです。」

お話をうかがった鯖江市国際交流協会(SIA)会長の徳橋寿治さんと、事務局長の清水吉昭さんはそう言い切りました。どうしたら、外国の人たちに日本を理解してもらおうことができ、交流することができるのか、そのことに真剣に取り組んでいる姿がそこにありました。

SIAが産声を上げたのは、平成5年(1993年)。アジアの小都市で初めて開催される「世界体操競技選手権鯖江大会」の2年前になります。この大会には一般ボランティアが3500人も参加し、鯖江の市民活動が盛り上がるきっかけとなりました。

一町村一ヶ国交流事業などもあり、それまで鯖江では珍しい存在だった外国人と触れ合う機会が増えることとなるため、市民の有志が集まりその母体が誕生したのだそうです。

他の市町村の国際交流協会が経済交流を考えた行政主導であることが多いのに対して、SIAが独自の点は、人とのつながりを重視したボランティアによる市民主導であるということです。たとえば、難しい名称だった事業名を親しみやすいものとしたこともその表れと言えるでしょう。

『お互いを知る ふれあい委員会』

現在、福井県にきている外国人は70ヶ国、約12700人です。その方たちに日本のルールを知ってもらうため、日本文化にふれる機会を作っています。たとえば座禅を組んだり、そばを食べたりするイベントや、浴衣を着て「やしき」を踊ってもらう交流事業などを行っています。

また、世界各国の料理教室を開くなど、外国の文化を紹介してもらおうことで、民間交流を深めたりもしています。以前、日本の感覚でクリスマスパーティーを開こうとして、宗教の違いでクレームがあり、急遽、年末パーティー

に変更したなどという失敗から学ぶことも多くありました。

また、地元の人たちとふれあうことで、お互いに暮らしやすい環境を作っていくことも大事な目的です。

ホームステイなど家族ぐるみでの交流も行っていて、ホストファミリーとなった会員さんとは、ホームステイした学生からメールが届き、長く交流が続いています。

写真提供：鯖江市国際交流協会



▲ふれあい委員会の「中国料理教室」。美味しい各国の料理は、国境を越えるいちばんの近道かも。

『生活を支える ささえあい委員会』

外国人が日本で暮らす上で不安を感じる点として、病気や怪我をした時にどこへ行ったらいいのかわからないということや、災害の時に、どこへ避難すればいいのかわからないということがあります。祖国から遠く離れた、言葉も通じない土地で、それはまさに死活問題です。現実に福井豪雨の時に、そういう事例がありました。

そこで、外国語が通じる病院や災害時の避難場所が、英語や中国語で書かれた生活ガイドマップを作成、配布しています。さらに、たんなん夢レディオで外国人向けの番組を提供し、絶えずさまざまな情報を発信し、その生活を支えています。

『言葉でつなぐ まなびあい委員会』

来日する研修生の多くは、ある程度の日本語をマスターしてやってくることもありますが、現実には不十分なことが多く、日常生活に支障が出ることもあります。しかし、受け入れている企業側に、そのフォローを望むのはなかなか難しいことです。そこで有志による日本語教室を開催しています。

日常生活に不自由しないための日常会話教室や、それぞれのレベルに応じたきめ細かなカリキュラムがその特徴です。そして日本語能力試験にチャレンジすることで、将来の仕事に活かすこともできます。

真剣に学ぶ生徒とのふれあいの中で、ボランティアの教師たちも多くのことを学んでいます。

また、ここでは、海外との文化の違いを踏まえて、日本の礼儀やマナーな

ども教えています。

『これからの国際交流』

「言葉の問題や日本の慣習、生活ルールの理解など、外国人が日常で困らずに生活するためには、まだまだ多くの問題があります。その問題を解決するために、民間がやっている協会だからこそ、失敗を恐れず、さまざまなチャレンジをしていきたいですね。」徳橋さんと清水さんは、異口同音にそう話します。

「うまくいかなければ、変えていけばいい。正解はないんですから。」誰もが無難に、国際交流をして見識

を深めていく場を作っていくこともこれからの課題だと言います。「日本語しか話すことができないから、国際交流は無理だ、という日本人側の先入観も無くしていきたいですね。」

「さまざまな人が、自由に出入りすることで、若い人のアイデアや感覚を取り入れ、よりよいものにしていきたい。そのために事業内容が変わっていくことも構いません。民間だからこそ、そんな型にはまらない国際交流ができるんです。」

「SIAや、SIAの活動をより多くの人たちに知ってもらうことで、実りある国際交流につなげていくことができると思っています。」

お二人の熱い言葉と表情が、鯖江の国際交流を支えているSIAの熱い魂を象徴しているように感じられました。

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内

TEL: 0778-54-0059
FAX: 0778-52-9090

http://www.sabae-npo.org/sia/
sia@sabae-npo.org

正会員募集中!
賛助会員募集中!

●代表者…徳橋 寿治
●活動開始…1993年2月27日
●正会員数…139名(2011年11月現在)
●賛助会員…30団体(2011年11月現在)

◎活動目的
国際化促進事業等を通じ、鯖江での多国籍文化の交流と、国を超えた意識での人づくり、地域づくりを目指す。

外国人のための 行政書士無料相談会
年5回ほど開かれる、外国人のための無料相談会。日本生活することで経験する、様々な悩みの解決をプロのアドバイスで支援します。

外国人による 日本語スピーチ大会
在住外国人による、日本語による発表会。地域の人たちとの触れあひも、大きな目的のひとつです。

「これまでいろいろな活動もしています」

頑張っ て欲張る!!

学生だもん。

様々な人や団体との協力で、『世界』に鯖江を発信した『SABAEメガネギネス2011』。



学生団体 with

まちづくり 教育 文化 その他

「学生」は、いろんなことを知らないの
があたりまえ。
自分たちも、まわりの人たちもそう
思ってるから、普通だったらバカバカ
しく思えることでも、ちょっと非常識
だと思えることでも提案できちゃうし、
動けちゃう。

このコンテストは、東
大・京大・早稲田・慶応
といった県外を中心と
した学生たちがチームに
分かれ、2泊3日で鯖江
に泊まり込み、この地域
を元気にする様々なアイデアを競うも
ので、今年の9月で4回目を迎えます。
去年、その裏方やコーディネーター
として活躍したスタッフが、「もっと
何かしたいよね!」という思いで結成
したのが、この団体。

「学生」と聞くと、どんなイメージが浮かびますか?
『自由』『学業』『若さ』『サークル』:色々な言葉
が浮かぶものの、さて、地域社会との接点と言われると、
あまり関係がないと思う人も多いのでは?
学生団体 withさんは、その先入観を、気持ちよく
否定してくれる、「ビッドな仲間の集まりです」。

「with」という言葉には、「自分
たちだけで何かするのではなく、地域
人・組織など、いろんな『つながり』
の中で活動している」という気持ち
が込められています。

平成23年9月12日(月)、本山誠照寺で開かれた、第4回「鯖江市地域活性化
プランコンテスト」。今年もスタッフとして
“with”のメンバーが大活躍!



**第4回鯖江市地域活性化
プランコンテスト**

**市長を
やりませんか?**
- Be a Mayor of Sabae City -

今年も今年から学生が鯖江市に集結!
2泊3日で地域活性化プランを考案

※参加費:なし
※主催:鯖江市まちづくりセンター
※協賛:鯖江市教育委員会、鯖江市青年会議所、鯖江市学生団体協議会
※応募期間:平成23年9月10日(日)～12日(月)
※募集:平成23年9月10日(日)18時～
※発表:平成23年9月12日(月)18時～
※会場:鯖江市誠照寺 本山誠照寺 (鯖江市本町3丁目8-1)
※問合せ先:鯖江市まちづくりセンター(TEL:0120-51-2800)

『学生の特権!』

「学生」というのは、職業と言うより
「期間限定の立場」を表しているとも
言えます。
「子ども以上で社会人未満」:そんな
イメージは、学生側でも、まわりの大
人たちの側でも、無意識に持っている
ものではないでしょうか?
実は、その「発展途上」な立場だか
らこそ、地域とつながるメリットがあ
るんじゃないかと、代表の亀田さんは
話してくれました。



取材に応える、(左から)岡本さん、亀田さん、藤田さん

「学生は、いろんなことを知らないの
があたりまえ。
自分たちも、まわりの人たちもそう
思ってるから、普通だったらバカバカ
しく思えることでも、ちょっと非常識
だと思えることでも提案できちゃうし、
動けちゃう。
逆に、自分たちが未完成なことを知
っているからこそ、まだまだ成長や発
展ができるんだと思うんです。
この『with』って団体は、いろ
んな人たちと『つながって』何かをし
ていこうって集まりだけど、学生にと
っては『学び』の場だし、一種『トレ
ーニング場』みたいな部分もあって:
それがまた、すごく楽しいんです。」
まさにそれこそが「学生の特権」と
言えるのかもしれない。
「大学のサークルと『with』の予
定が重なったら、迷わず『with』
をとります。だって、自分がするべき
『仕事』があるし、人間関係や社会的
な意味でも『責任』が重たいと思うか
ら...」
淡々と話してくれる彼女たちの表情
には、頼もしさすら感じられました。
『SABAEめがねギネス』
今年の5月5日(木)に、西山公園と
本町を結ぶ跨線橋の上に、2011メ
ートルの「めがねの鎖」が並べられま
した。
そう、県内外のメディアも取り上げ

あちこちで報道された、「SABAE
めがねギネス2011」です。
市民はもちろん、業界団体や企業、
行政、NPOや地域団体も巻き込んで、
何ヶ月も前から準備してきたこのイベ
ントは、無事、ギネス記録として世界
一に認定され幕を閉じました。
このアイデアの元も、実は第1回目
の「地域活性化プランコンテスト」で
提案され、何年も、大事に温められ
てきたもの。
当日スタッフの中で、その時のコン
テストを直接知っているメンバーは、
決して多くはありませんでしたが、最
後の認定式で号泣し、大歓声で飛び上
った学生たちの様子は、時を超えて、

関わった全員が「一体」になっていた
ことを、何よりも雄弁に語ってくれて
いました。
そうやって、地域と、人とつながり
ながら、学生達は成長し、また、次の
成長へのステップを踏んでいくこと
でしょう。
そして、そこに関わることでできた
大人たち:また地域そのものも、若者
たちから多くを学び、自分たちのエネ
ルギーを高めることができるに違いあ
りません。
もしかすると、学生達が生き生きと
活動できる場所がある限り、彼女たち
の可能性は、そのまま、地域の可能性
へとつながっているのかもしれない。

これまでに こんな活動もしてきま すよ



夏の「やっしまつり」
でのツーショット☆
様々な地域イベントでも
積極的に活動中!

- ◆就職セミナー
学生を対象にした就職
セミナーを開催。
厳しい雇用状況の中で、
“旅立ち”の準備とス
キルアップをサポート。
- ◆誠市・ご縁市のお手伝い
月1回(1月と2月はお休み)、
鯖江市中心街で開かれ
る「市」にも参加。
地域の盛り上げ役に!

〒916-0026 鯖江市本町2丁目1-11
らてんぼ内
TEL:なし
FAX:なし
http://aneblo.jp/gakuren/
ratenpo.sabaesni@gmail.com

**基本
タ**

正会員募集中!

ボランティア募集中!

●代表者...亀田 美里
●活動開始...2011年1月
●正会員数...23名(2011年11月現在)
●賛助会員...なし

◎活動目的
地域や、多くの人とのつながりの中で、自分たちも「まち」
も、お互いに学び、育っていくこと。



ギネス達成!!

“さばえ”を世界に発信。

絶好の天気恵まれた5月5日。つじ祭りまでにぎわうゴールデンドウイーク真っ只中、多くの市民活動団体のみなさんや、つじ祭りの来場者の手によって、ひとつひとつのめがねが繋ぎ合わされました。

「鯖江を全国・世界に向けてPRすること」「鯖江市民の皆さんにめがね産業に誇りを持ってもらうこと」この二つを目的に、「SABAEめがねギネス2011実行委員会」が発足。日本をはじめ、世界中の方々から、たくさんの方々が寄せられました。イベント直前の3月11日、東日本大震災が発生すると、いち早く老眼鏡を被災地へ贈る支援を決めるなど、決して自らの事業だけでなく、自分たちの立ち位置で自分たちのできることをすることも忘れませんでした。



▲認定員さん(右)とともに認定証を手にする山田実行委員長(中)と、宇野副委員長(左)。



▶地産のお椀に囲まれためがねの鎖の最後尾!

最後に2011メートル、16530個目を牧野百男鯖江市長が並べ終えると、万歳三唱が沸き起こりました。めがねだけでなく、多くの人たちの思いも繋ぎ合わせることができた「SABAEめがねギネス2011」。ギネスの世界記録としてだけでなく、関わった世界中の人たちの心に深く刻み込まれたのではないのでしょうか。

▲長さを計測中。

▼曇天の中、不安と期待を胸に準備を進める運営スタッフの皆さん。



さばえ名物 秋HANABI

愛を謳う。

▼(社)鯖江青年会議所 高田理事長の挨拶。



▲鯖江JCメンバー以外にも、沢山の市民スタッフが盛り上げてくれました!

その昔、鯖江にも花火がありました。つじまつりの頃、西山で打ち上げられていた花火を覚えていた方も多いでしょう。しかし、当時の花火大会は商業的傾向が強く、折からの景気悪化のためにスポンサー企業が集まりにくくなったことから、残念ながら10年ほど前に中止になっていました。

そんな中、町の人たちが今よりもっと元気にしたいという想いから、花火大会の復活のために立ち上がったのが鯖江青年会議所(鯖江JC)でした。鯖江JCでは、過去の商業主義的なものを廃し、「市民が作る市民のための花火大会」をコンセプトに、市民の手による花火大会の実現を目指しました。

そのため、公募による市民からなる実行委員会を立ち上げ、様々な仕掛けを用意しました。その一つが、メッセージ花火です。年ごとにテーマを決め、このテーマに沿った市民のメッセージを花火に託して打ち上げるというもの。そして、次代を担う子供達による仕掛け花火。これらは、市民からの協賛金により運営されます。

平成23年のテーマは「愛」。9月19日(月)、降水確率80%という予報の中、奇跡的に花火大会の間は雨も降ることなく、予定とおりスケジュールをこなすことができました。メンバーの熱い思いが天に通じたのかも知れません。



▲花火の光と日野川を渡る風に包まれ、会場は幻想的な雰囲気...

「よき社会人として

どんな人？



野外活動をする、ビーバースカウトのメンバーたち。
西山は、鯖江市街に近く、豊かな自然の残るメインフィールドのひとつ。
写真提供：鯖江市スカウト協議会

「スカウト協議会」と聞くとピンとこなくても、ボーイスカウト、ガールスカウトと聞けば、その姿が目に見え、鯖江市スカウト協議会「さん」は、鯖江地区のそんなスカウト運動を推進する団体です。

『歴史ある世界的な組織』

ボーイスカウトが産声を上げたのは1907年のイギリス。今から100年以上も前のことですが、なんとその翌年には、日本にもスカウト運動についての情報が入ってきました。世界にまたがる組織「世界スカウト機構」に加盟している国や地域は、現在180を超えていて、その活動は、文字通り世界的。

創始者であるロバート・ベーデン・パウエル卿がイギリスの退役軍人だったことから、制服や活動の形は一見軍隊風にも見えますが、宗教や民族の多様性を認めて作られた規則や信条は、すべて「よき社会人を育てる」という人と社会の根本的な目的のためにあるものです。

『ビーバー/カブ/ボーイ/ベンチャー/ローバー』 …って、知ってます？

実はスカウト運動の組織は、隊員の年齢によって、しっかり所属や名前が分けられています。例えば、小学校入

学前年の9月〜小学2年生までは「ビーバースカウト」。その上が「カブスカウト」で、小学5年の9月〜中学3年までの「ボーイスカウト」の上にも「ベンチャー」や「ローバー」という組織があります。

上の世代の隊になるほど、自分たちで計画を立て、「自主」と「責任」を、より重んじる活動に変わっていくのも特徴です。



『鯖江のスカウト活動』

「スカウト協議会」自体のスタートは、平成4年のことですが、鯖江に最初の「団」ができたのは50年以上前のこと。県内でも古い歴史を誇っています。それだけの間続いているのは、なぜか…

もちろん、組織としての強さや、先輩たちのバックアップなどの理由もあるでしょう。でも、やはりスカウト活動で蒔かれた種が、メンバーたちの中でしっかりと根をはり、その人の人生を豊かにしていくからだ、メンバーの皆さんは考えています。

「スカウト活動は、決して今日や明日の結果が見えてくるものではないですが、ひとりひとりの人生の中で必ず花開く瞬間があると信じています。」

百年の間、変わり続けている社会にあっても、経験者が太鼓判を押す活動の意義は、しっかりと光を放ち続けているのです。

『昔は子どもたちのロミ』

とはいえ、そんな歴史のあるスカウト活動にも、近年の少子化の影響はあるようです。

入団希望者の減少。

子ども全体の数そのものが減ってきている他にも、塾や部活動、習い事などで、子どもたちが「忙しく」なってしまったことも一因のようです。

昔は、子ども同士が友達に声をかけて、口コミで入隊するメンバーが多かったとか。

それは、すっかりとした「子どもたちのコミュニティ」があった証しでもあります。

それに比べると、今は「忙しさ」のあまり、いろんな場所から「孤立」し



『よき社会人になるために』

野外でのキャンプ、室内での様々な研修、もちろん、募金活動など社会への奉仕活動も含めて、スカウト活動は、基本的にグループ「小さな社会」で行われます。

そのなかで、体を使い、仲間とコミ

ている子どもたちが増えているのかもかもしれません。

大人ですら、孤立や孤独は耐え難いものですから、子どもであればなおさらです。

スカウト運動は、そんな「孤立」に対する、ひとつの解決策を示してくれているとも言えそうです。

ユニケーションし、先輩や指導者の指示を仰ぎ、そしてルールを守って行動することで、自分が生きていくための根本的な価値観とバランスを、心と体で習得していく…それが重要なことです。

◎自分の長所と短所を理解すること

◎自分が本当にやりたい事を
見つけられること

◎自分の人生を、自発的に、そして
責任を持って生きていくこと

◎そしてそれらは社会の一員で
あることで、はじめて意味を
持つのだとわかること

スカウト活動を通じて子どもたちが身につけていくのは、そんな目標なのです。

例えば、それは決して子どもたちだけに向けられる言葉ではないのかもしれない。

「自分たちは、指導的な立場で子どもたちを育てていますが、実は逆に子どもたちからも、日々たくさんのお話を学び続けているんです。」

メンバーのこの言葉に、鯖江市スカウト協議会の、本当の奥深さを感じることができました。

『これまで』 こんな活動もしています

- ◆緑の募金 歳末助け合い募金活動
毎年、全国規模の募金運動に参加。街頭での募金呼びかけなど。
- ◆スカウトフェスティバル開催
- ◆B・P祭
スカウト活動の創始者である、ロバート・ベーデン＝パウエル卿の誕生祭。
- ◆全国植樹祭への参加
第60回全国植樹祭ふくい2009でも様々な場面で活躍。



正会員募集中!

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内

TEL: 0778-54-7055 (交流センター事務局)
FAX: 0778-54-7058 (交流センター事務局)

info@sabae-npo.org
(交流センター事務局)

●代表者…植田 命寧
●活動開始…1992年1月
●正会員数…約85名(2011年11月現在)
●賛助会員…なし

◎活動目的
どんな状況でも自らを律し、生きていけることを目標とした青少年に対する社会教育。

「時間銀行」

やっています。



NALC(ナルク)さんならではのユニークなシステム「時間預託」の手帳。これに「時間」の出し入れが記載されていく。



NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ
NALC ぶくい

福祉 文化 その他

もし、時間をお金のように貯蓄でき、将来引き出して使えるとしたらどうでしょう。

ナルクぶくいさんは、会員同士のボランティアを、ポイントとして通帳に貯めていける「時間預託(じかんよたく)」システムで、それを可能にした、全国組織の団体です。

『NALC=ナルク』

ナルクとは「NIPPON ACTIVE LIFE CLUB(ニッポン・アクティブ・ライフ・クラブ)」の頭文字を取った名前です。

文字通り、充実した相互ボランティアにより、活動的な人生と社会をつくり上げることを目指しています。

1994年にスタートした全国組織は、翌年の阪神淡路大震災でも、のべ2万時間ものボランティアを行い、その4年後の1999年にはNPO法人として認可されました。

本部は大阪ですが、全国に130を超える活動拠点があり、その福井県での拠点が「ナルクぶくい」です。

全国共通のフォーマットはありますが、各拠点ごとに地域にあった活動を繰り返し、会員同士の暖かみのある関係も大切にしています。

『1時間で1点が通帳に』

ナルクでは、会員同士の相互扶助ボランティアが柱です。

老後も含めた人生の充実を目標に、活動には次のようなものがあります。

- ◎ 高齢者の通院介助、見守り、話し相手
- ◎ 障害者の通院介助、通勤・通学 送迎、帰郷送迎介助
- ◎ 学童の下校見守り
- ◎ 社会福祉施設の車イス清掃、庭園、施設内の清掃
- ◎ 公共公園等の清掃
- …等々

もちろん他にも様々な活動がありますが、会員がこのようなボランティアを1時間することに、本人の「時間預託通帳」に1ポイントが貯蓄されることとなります。

『時間と距離を超えて』

貯まったポイントは、いつか自分がサービスを受けたい時に「引き出し」て、他の会員さんにボランティアしてもらい形で使えます。

これが、ナルクの時間預託システムの基本ですが、このポイントは、本人

だけでなく、例えば離れた土地にいる両親にも使えるというのがユニークな点です。

つまり、自分が鯖江で貯めたポイントで、北海道や九州の親への「話し相手ボランティア」を、現地のナルク会員さんをお願いできるというように。

ボランティアの価値というのは、人それぞれで受け止め方も違うため、気持ちのずれ違いも多いと言われます。

それを「時間」という共通の物差しを使うことで、距離をも飛び越えられる「財産」として置き換える。

…これが、ナルクさんの時間預託システムの真骨頂だと言えるでしょう。

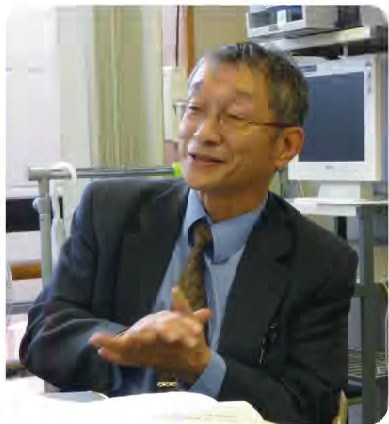
『何ごと自然体で』

今回お話をうかがったのは、島啓介代表、中野三郎事務局長ほか「ナルクぶくい」を運営する役員の皆さん。

全会員の平均年齢が60代なかばということもあり、場の雰囲気も、それに見合った落ち着いたものでした。



島代表



中野事務局長

その中で、会の運営の問題点も、いくつか聞かせていただきました。

「活動に参加するメンバーが固定化しがち」「一度、活動期間が空いてしまうと、次から参加しづらい」「ボランティアのマッチングやコーディネートには、かなり気を使う」などなど…

実際、時間預託に関わるボランティアだけにこだわりすぎて、活動への参加がしんどくなる会員さんもあるとか。「結局、無理はいけないんでしょね。出来ることを出来る時にする。楽しんでることに楽しく参加する。そうして仲間と話し、つながっていることで、さらに時間預託のシステムも生きてくるんですよ。」

事実、会の中には、絵手紙やゴルフ、俳句といった同好会もあり、ボランティア活動以外の場で、仲間同士の絆を深めているとのことでした。

『生きる』ことを考える』

TVをはじめ、様々な媒体で紹介さ

『これまで以上に こんな活動もしてみよう』

「エンディングノート」普及活動

自分の人生の幕引きを、真摯(しんし)に考えるためのツール。それが「エンディングノート」です。

財産などの「遺言」的な部分とともに、大切にしている「思い出」「家族へのメッセージ」など、書き入れることで、自分の「存在」や「心」を伝えることができるよう作られています。

ナルク本部の企画室で作成されたこのノートは、様々なメディアでも取り上げられ、多くの反響がありました。



さんの活動の、本当の意味が隠れているのかも。

一見、ボランティアを「お金」と同じように「やりとりする」システムがスゴいと思いがちですが、そこには確かに別の要素がありそうです。

「エンディングノートもそうですが、自分たちは、生きることそのものを考えていきたいんですよ。」

NALCの文字に入っている「アクティブな人生」の意味。それは、ひとりひとりの会員に向けられた、大きな「問いかけ」なのかもしれません。

ナルクさんの活動も、その「人生」と同じように、まだまだ目に見えない可能性を秘めているようです。

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内

TEL: 0778-51-7609
FAX: 0778-51-7609

http://nalc.jp/ (本部)
info@sabae-npo.org (交流センター事務局)

会員募集中!
賛助会員募集中!

●代表者…島 啓介
●活動開始…2002年3月17日
●会員数…298名(2011年11月現在)
●賛助会員等…6名(2011年11月現在)

◎活動目的
「自立」「奉仕」「助け合い」「生きがい」を理念とし、充実した人生と、共助のできる社会の実現を目指す。

“地域自治”の

要



現在2期目を務める齋藤会長は「市民役条列推進委員会」の委員でもある。

平成22年7月に鯖江市区長会連合会の主催で開催された「さばえしくちようかいれんごうかい」の一場面。

鯖江市区長会連合会

まちづくり その他

例えば、毎月目にする市の広報誌。それを家庭に届けてくれているのは、各町内の区長さん。その区長さんたちが所属するのが「鯖江市区長会連合会」です。行政の一部と考えている皆さんも多いかもしれませんが、これからの地域の姿を考える上でも、大きなパワーを秘めています。今回、市民活動団体の枠から離れて、貴重なお話をうかがいました。

『区長さんのお仕事』

冒頭で書いた、市の印刷物の配布以外にも、区長さんたちは、実に様々なお仕事をしています。

地域から上がってきた苦情や要望を行政に伝えること。納涼祭のような地域イベントの開催。「婦人会」「壮年団」「子供会」といった町内を構成する各グループのとりまとめと調整：とにかく、生活に関わることを全てが守備範囲のため、その大変さは想像にあまりありません。

逆に、区長さんたちが頑張ってくれてくれているからこそ、市役所を中心とした行政も機能しているといえるでしょう。

今回取材をお願いしたのは、そんな区長さんたちのとりまとめ役として精力的に活動される、齋藤晉(すずむ)会長です。

『マズいなあ〜』と、思いつつ』

目の前に現れたのは、笑顔が魅力的

で、快活な話しぶりの紳士でした。

——会長を受けられた経緯は？

齋藤 前会長からお話があったからですが、最初は正直「マズいなあ〜」と思いました。(笑)

それまで副会長をしてたので、仕事の大変さはある程度わかっていましたからね。ただ、自分が受けることで、これまでお世話になった地域に恩返しが出るのならと、ひとつの「チャンス」としてとらえることにしました。

そういう齋藤会長は昭和20年生まれ。18歳で東京に出て、40代後半に鯖江に帰ってきた時、地域のたくさん人々から支えられ、助けてもらったことが、会長を受けた大きな理由だったと言います。

『鯖江の地域力は高い！』

地域の自治に関わってきたことで、色々な問題点も見えてきたそうです。

齋藤 やはり、若い世代になるほど、

とって、それを実践してきた「先輩」だとも思えます。

『自立した地域自治へ』

一方、齋藤会長は、歴史があるが故の、会の問題点も指摘します。

齋藤 長い間、行政と住民をつなげてきたために、市役所に頼り過ぎてしまふ傾向もあるかもしれない。

確かに、区長の仕事は、責任もあり、負担も大きいからわかるのだけれど、ややもすると「要求」「陳情」が中心になってしまいかねない。今後、できることなら「自分たちで

出来ることは自分たちでする」自立した、市民目線の区長会連合会であって欲しいと思っています。

これは、まさにNPOや市民活動に携わる、多くの人が抱えている問題と同じです。

齋藤 今の時代は、人と人との繋がりの大切さを、もう一度、しっかり考え直すタイミングだと思いますから。

にこやかに、そう語る齋藤会長に、市民活動に関わる自分たちとも多くの「共通点」があることに気づかされた、有意義な取材となりました。

「これまで」 「こんな活動もしてきます」

- ◆鯖江市民クリーンデー
市内全域を対象にした、各町内における清掃美化活動。
- ◆福武線利用促進活動
- ◆安心・安全まちづくり研修会
講師を迎えての、防災・減災の講習会。
- ◆鯖江市区長会連合会
市長と語り合う会
鯖江市の現状と課題についてのフリートーク。
- ◆ワークショップ
区長会の現状と課題について研修。



〒916-0023 鯖江市区西山町13-1
鯖江市民協働課内
TEL:0778-53-2215
FAX:0778-51-8156
SC-ShiminKyodo@city.sabae.lg.jp
(鯖江市民協働課)

- 代表者…齋藤 晋
- 活動開始…1958年4月20日
- 正会員数…157名(2011年11月現在)
- 賛助会員…なし

◎活動目的
会員相互の親睦と地位向上、市役所と市民の連絡調整を行うことで、市政と市民生活と地域の発展に寄与すること。

『市民活動との接点』

NPOや市民活動団体から見ると、歴史のある地域自治組織というのは、あまり接点のないフィールドだという人もいます。

逆に、生活に密着した地域自治に関わる人から見ると、NPOや市民活動団体を、得体の知れない新興勢力のように感じる人もいます。

そんな中、区長会連合会とNPO・

地元のグループに参加する意味を見失っている傾向はありそうですね。「子供会」や「老人会」は比較的元気な地区が多いですが、それ以外のグループだと、新しい人材を増やせないことで苦勞しているという話を良く聞きます。会費だけ払って、あまり活動には参加しない人が多いのかも。

ただ、そう言う人たちも、決して無関心なだけではないんですね。グループの方で「ちょっとやってみませんか？」と入口を用意すれば、地域の人手とつながっていることの素晴らしさを感じてくれるものなんです。

実際、イベントやボランティア活動への参加者数とかを見ていても、鯖江の「地域の力」は、かなり高いと感じています。

それは、一度鯖江を外から見ただけのある齋藤会長だからこそその確信にも思えました。

市民活動団体が協力して開催した「ふるさとさばえ市民役フォーラム」について、齋藤会長は大きな意味を感じると話してくれました。

齋藤 それぞれの立場で、いろんな意見を持っている人がいます。それでも地域を良くしたいという目的が同じなら、フォーラムの場でしたように、お互いの意見を交換することは、素晴らしいことだと思います。

意見の違いは、あって当たり前。その「違い」を認め合うことで、新しい発想や繋がりが生まれてくる。自治会活動と市民活動は接点が少ないと言いますが、各地区には、何らかの形で「まちづくりの委員会」のようなものがあります。

例えばその中に、個人なり団体なりで参加していただだけでも、市民活動はグッと住民の身近になると思えますよ。

これまで行政が担ってきた公共サービスを、良い形で市民側に返していかうという「新しい公共」が言われる中、NPOや市民活動団体も、その役割を担おうとしてきています。

しかし、考えてみれば、区長会連合会のような地域自治組織は、ずっと昔から日本の社会に根付いてきた、地域の公共の担い手でした。

“想いを結集し、

地域に貢献せよ!!



▲ハッピー・エコタウンプロジェクト



▼幼稚園児に鯖江を紹介



フォーラム事業

▼みらい塾



特定非営利活動法人
さばえNPOサポート

- まちづくり
- 環境
- 教育
- その他

協力団体とのクリーンセンター

『市民の“想い”とともに』

「名前は聞いたことあるけど…何してる団体?」「さばえNPOサポート関係者が、(ことあるごと)に耳にするこのセリフ。」

『NPO』という言葉自体、まだ知らない人も多い中、さらに『中間支援』という活動目的を持つ謎の団体…はたして、その実態とは?!

さばえNPOサポートが活動を開始したのは、平成11年(1999年)の4月29日。

当時、空き家となっていた旧図書館を「市民活動の拠点」として活用することが決まった時のことです。

鯖江では、平成7年の「世界体操競技選手権 鯖江大会」を契機に、ボランティア活動が活発化し、多くの市民活動団体が作られました。

そんな中で、「市民活動を支援してくれる団体が欲しい。」「活動をするための拠点があたら…」という多くの市民の「想い」が結集。施設と同じ「鯖江市民活動交流センター」という名前の団体として、そのスタートを切ったのです。

平成13年にはNPO法人格を取得。さらに平成18年には、鯖江市で指定管理者制度(行政の持っている施設等を、民間の組織に委託して管理・運営する制度)がスタートしたのを機に、「特定非営利活動法人さばえNPOサ

ポート」と法人名を変更し、現在の姿になりました。

- ①市民活動の「中間支援組織」としての活動のあり方
- ②市民活動交流センター」のあり方

この二つは、さばえNPOサポートが、いつも考えている大切な視点です。市民や市民活動団体の様々な要望に応えること。そして、市民活動に参加する多くの市民の心と心が結ばれ、感動を共有できるような瞬間をサポートし、提供すること。

これこそが、さばえNPOサポートの活動の根本に流れる考え方もあります。

『チューカン・シエン?』

おそらく、多くの人が聞き慣れない言葉「中間支援」。

これには「さまざまな立場の、さまざまな人や組織の“あいだ”において、共通の事業や問題解決の“手助け”を

する場面もあるでしょうが、実はそこで調整役を果たすのが、さばえNPOサポートのような「中間支援組織」なのかもしれません。

もちろん、まだまだ力不足の部分もあり、発展途上の組織ですから、少々、風呂敷を広げたお話かもしれませんが、もっと小さなことからでも、ぜひ、さばえNPOサポートと「繋がって、みて下さい」。

その一歩が、「あなた」と「鯖江」のより良い未来へのスタートになるようにしていきたい。

さばえNPOサポートは、そんなことを考えている団体なのですから。

ちづくり」が現実的になってきました。「市民が主役」であることは、国民主義の日本の「常識」です。

なのに、なぜあらためて「市民が主役、だ」という条例を作ったのか? その意味に、さばえNPOサポートも大きな関心を持っています。

『もしかして…今の鯖江では「市民が主役」になってないってこと?』

もちろん、「市民主役条例」は、読む人それぞれが、いろんな視点で意味を見いだせるものです。

ただ、その内容には、市民が責任を持って地域と行政に関わっていくことが謳われています。

「責任を持つ」ということは「関心を持つ」ということ。

つまり、行政や他人に任せっきりでなく、自分たちの声をしっかり発信して参加することが、この条例の指し示している「これからの鯖江の姿」だとも言えそうです。

『これからの鯖江、これからのNPOサポート』

今の鯖江がどうなのかは、人それぞれで意見が違います。

同じように、これからの鯖江をどうしたいかにも色々な意見があり、また、そうあるべきなのかもしれません。実は、その「いろんな意見」がある

する」といった意味があります。ですから、いろいろな事業や他の市民活動団体の裏方となっていることも多くあります。

どうやら、さばえNPOサポートが『何をしている団体?』と聞かれるのは、そんな理由もありそうです。

もしかして、鯖江で開かれた、いろんなイベントやフォーラムなどの片隅に「共催:さばえNPOサポート」なんて文字を見たことはありませんか? 実は、それこそが『中間支援組織』として活動していることの証拠でもあるわけです。

とはいえ、中間支援以外に、さばえNPOサポートが独自に展開する事業もたくさんあります。

『こころ』『みらい塾』『ハッピー』『恋愛工房』など(詳しくは、巻頭の「理事長挨拶」をご覧ください。);そのどれかを聞いたことがあったり、手にしたことがあったり、また、参加したことがあったり:そんな市民の方も多いのではないのでしょうか?

普段の生活の中で、鯖江に住む全ての皆さんの役に立ってないか?

それも、さばえNPOサポートの考えるミッションのひとつなのです。

『市民主役条例!』

平成22年、鯖江市の「市民主役条例」が制定され、「市民が主役のま

「NPO?」「NPO法人?」

- NPO(Non-Profit Organization)とは、民間の“非営利目的団体”のこと。といっても、決して“お金儲けをしない”ということではなく、営利事業を行い、組織の運営や事業のために、その収益を使うことができます。一般の企業と違う点は、利益を目的としないところで、ボランティアや市民活動をする個人に対して、活躍の場を提供し、それぞれの団体の目的のために活動しています。
- NPO法人(=特定非営利活動法人)とは、「特定非営利活動促進法」に基づいて、法律が定める特定の公益活動を行うことを主な目的とした法人です。

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1-9-20
鯖江市民活動交流センター内
TEL:0778-54-7055
FAX:0778-54-7058
http://www.sabae-npo.org/
info@sabae-npo.org



正会員募集中!

賛助会員募集中!

ボランティア募集中!

- 代表者…八田 登師男
- 活動開始…1999年4月29日
- 正会員数…93名 16団体(2011年4月現在)
- 賛助会員…149名 7団体(2011年11月現在)

◎活動目的

鯖江市の市民活動のPRや、その健全な発展を支援し、市民目線の生き生きとした地域の創造を目的としています。



このたび、皆様のご協力をいただき、市民活動情報誌「OSANPO」
 出発号が発刊となりました。
 ご協力をいただきました皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。
 3年前に担当委員会が出来て、さまざまな試行錯誤や紆余曲折がありました。それらを、初代委員長をはじめ関係したスタッフ達の声「OSANPO」
 ここに掲載させていただきたいと思えます。

☆情報誌の表紙は…

- A で：情報誌の表紙デザインはどう
 しましょう？（※この時、まだ最終の
 デザインが決定していませんでした。）
- B これなんかいいんじゃない？
 西山公園の風景。
- A 他にアイデアはありませんか？
- C 白のタンクトップと短パンで、胸
 に赤字でNPOって入ってる4人
 組の写真なんてどう？衣装代でち
 よっと予算は使うけど。
- A 総会で怒られちゃうじゃん。
 そしたら総会の時に、みんな着
 て、出て行けばいいじゃない。
- C スー◯ーマンみたいに早着替えし
 て。（笑）
- B もっと怒られるって！（汗）
 やっぱ、だめか。
- C じゃあ次の「みちくさ号」のとき
 にでもやりましょうね。（笑）
- A ええ！次は「お帰り号」じゃない
 の？（笑）
- D おいおい…（汗）

☆いいだっぺって誰？

- A ところで、この情報誌って、誰が
 言い出したんですか？
- C S事務局長！
- A ええっ、理事長じゃなかったの？
 知らなかった。
- C 最初はどんな風にしようと思った
 んですか？
- B グラビアも入れたいな〜って。
 予算で沖縄に撮影旅行に行つて
 いいねえ〜。
- A でも、それも総会で怒られるわ。
 冗談はさておき、いろんな市民活
 動団体さんがあるけど、お役立ち
 情報とかを、わかりやすく冊子形
 式で提供したいな〜っていうのが、
 最初の想いでした。
- D 元談はさておき、いろんな市民活
 動団体さんがあるけど、お役立ち
 情報とかを、わかりやすく冊子形
 式で提供したいな〜っていうのが、
 最初の想いでした。
- A その昔、さばえNPOセンターで
 やった「真夏の祭典」の時のプロ
 レスはすごかったね。
- B 盛り上がったっちゃあ、盛り上が
 ったね。

☆お金は必要だよ

- A その昔、さばえNPOセンターで
 やった「真夏の祭典」の時のプロ
 レスはすごかったね。
- B 盛り上がったっちゃあ、盛り上が
 ったね。

☆中間支援のあり方

- A そういえば、今年は大阪市長選が
 熱かった。

- B でもさ、「都構想」よりも「美人
 市長構想」とかの方が良くない？
- D M三姉妹なんか美人だよな〜。
- C それいいね〜。その方が宣伝にな
 って、きつと観光客も増えるよ。
- A 話題性はスゴイけど、やっぱ、
 マズイかな。（冷汗）
- B 鯖江も盛り上がっていいかなあかん
 けど、まじめな話、いろんな選挙
 のときに候補者によるディベート
 や討論会なんてのはどう？
- C それ、ケーブルテレビで生中継と
 か？
- B おお、それ賛成！
 政治的に公平な立場が前提だけど、
 予算を自前で確保している団体さ
 んとの協働事業っていう形だと現
 实的だよな。

- B 私たちも、市役所からの事業委託
 でやってるけど、はたして自立は
 できているのだろうか？
- D うちみたいな中間支援組織って、
 市民と行政が対等な関係なら「中
 間支援」は橋渡しの役割ってわか
 るけど、もし市民と行政が上下関
 係だと思ってるって、行政の「下請
 け」みたいなことになっちゃうわな
 い？
- A 上下関係で考えている人が多いと
 本当の意味での協働とか連携って
 難しくなっちゃうんだよな。
- C そう。確かにそれは大きな課題と
 してあるんだけど…
- B とは言え、現実にはこれだけ一緒に
 活動する市民団体があって、何百
 ・何千の市民が活動している今、
 その想いをコーディネートするのは、
 NPOサポーターの大事なミッ
 ションなのに変わりないよね。
- D だからこそ、自立した上で、視点
 は市民や市民団体の立場に立つて
 いかないと。
- C 鯖江の場合、比較的早い時期から
 市民活動団体と行政が二人三脚で
 やってきた歴史もあるけど…そろ
 そろ精神的にも経済的にも、自立
 していく必要があると思う。
- D そうしないと、行政とも市民とも
 対等な立場で、本当にやりたい公
 益事業はやっていけないよね。

☆まとめ…？

- B 市民活動とかボランティアをやっ
 ていると、想いがある分「こんだ
 けやってるんだから、認めて欲し
 いな」って思うことあるよね。
- D 日本では、ボランティアとかって
 無償とか奉仕ってイメージがある
 けど、実際は有償のものもあるし、誤
 解してる人も多いんだよな。
- C だからこそ、こういう情報誌が大
 事だっと思うのね。いろいろな分
 野や場所で市民活動を頑張ってい
 る団体や人に光を当てて紹介して
 いくことも、誤解を解くことも、
 私たちの中間支援の役割なんじゃ
 ないかな。

- A そのためにも、この情報誌が頑張
 ってる人達や団体さんのお役に立
 てればうれしいし、市民のみなさ
 んに対して、もっともっと市民活
 動についてわかってもらえるよう
 成長させていきたいよね。

—まだ取材に行けていない団体さん
 にもこれからどんどん取材をお願いし
 ていきたいと思えますので、どうかみ
 なさま、嫌がらずにやさしく受け入れ
 て下さいませ。



D …にしても、市民活動団体って、
 やっぱ資金の自立が難しい。あち
 こちで、そういう話聞くし…

- C 鯖江の場合、比較的早い時期から
 市民活動団体と行政が二人三脚で
 やってきた歴史もあるけど…そろ
 そろ精神的にも経済的にも、自立
 していく必要があると思う。
- D そうしないと、行政とも市民とも
 対等な立場で、本当にやりたい公
 益事業はやっていけないよね。



『OSANPO』では、これからも鯖江の市民活動団体さんを、どんどん掲載させていただきたいと思っています。

「ぜひ、私たちのことも取材して!」という団体の皆さんは、さばえNPOサポートまでご一報下さい。



『OSANPO～出発号～』

- 2011年12月 初版発行
- 発行人：情報誌作成プロジェクト委員会
- 発行所：特定非営利活動法人 さばえNPOサポート
福井県鯖江市長泉寺町1-9-20
TEL: 0778-54-7055
FAX: 0778-54-7058
E-mail: info@sabae-npo.org
- <http://sabae-npo.org/>